田喜庵大人輯

俳諧新五百題

江戸 万岁堂英平吉

光庵 潤三

おほよそ俳諧といふものは自由はなはだ新なり古徳に教え
給ひし通りさまざまよりとき移りこの道しよ
なのゆゑ人々殊外ひろくなりかるも新くなりかる
発句を作風特をゆくゆくはのわさにあはせ先累
わら特英達よ八申す毒を共とふちゆうあ
兵童蒙を法とし初学のむとくおんを十ふ
発句ものいはず俳諧光庵孤雲の八歩

のまゝに先師達への報恩とも思ひいつるもはゝ
ゝ句をはゝ法華経に心法をや南無史記の
滑稽をもて清輝の奥儀おもへる法もゝ服
ゝ出ゝ事を法の一理もゝ法ゝ者に
喜怒哀楽章ゝ色を初春ゝ白を楽
喜法よ色ゝの法有一ま風情いゝ系へゝと
ゝ毎風情のおゝ八一白のゝ新へ光朱南し
ふゝ法ゝ余情你ゝ春ゝ服おゝ

付法法のゝを思ふ春ゝ寂白法ゝ
比丘一也四ゝ八ゝを法ゝ大切おゝ法
家禁の二ツ八法炉房のゝ色ゝ法出ゝ法八
くゝ八ゝ春五ゝ八白勢百法ゝ配法の処を
ゝ春ゝ時ゝ春ゝ自他のゝを言る春ゝ八
法めゝゝ案ゝ私の心を入法ゝ法ゝふ
出ゝ春ゝ系も法ゝ一白のゝ朱座し
ゝ云ゝ留ゝ秋五百頭名所ゝ歌世ゝ秋ゝ思て

いまゝに新古百類移来て書肆に投す撰ばる
所の類一萬余言類よりるおほもの
さま家志既既よりとゝろの是八珍の
ものとしてこの年月を経ておほくの家に世の珍
奇なるを以ておのゝ遠ふかきるハの
器に盛る酒のめくまを以ていとやまぬこと言
まて次出さん酒肴砂糖席上の無るもを形人
味をへるまゝにかの是とするの類ふるまを

輯者北斎老人の撰んとこゝろ
ゝまるて此冊を述るものゝ

因喜東寅仲秋

文政十三季寅仲秋既望

北光庵

凡例

一雑題ハ夫木集なとの類ひにもとつきて配るといへ
とも森羅万象おもしろき数限りなき人々の人倫の
中に職人数かれとも自すくなくておもしろもしつる
のみなり

一釈教懐旧述懐祝ひの草々ハ伝例を
もとにしてあまたの句をえらひのせて
其例を厚くし

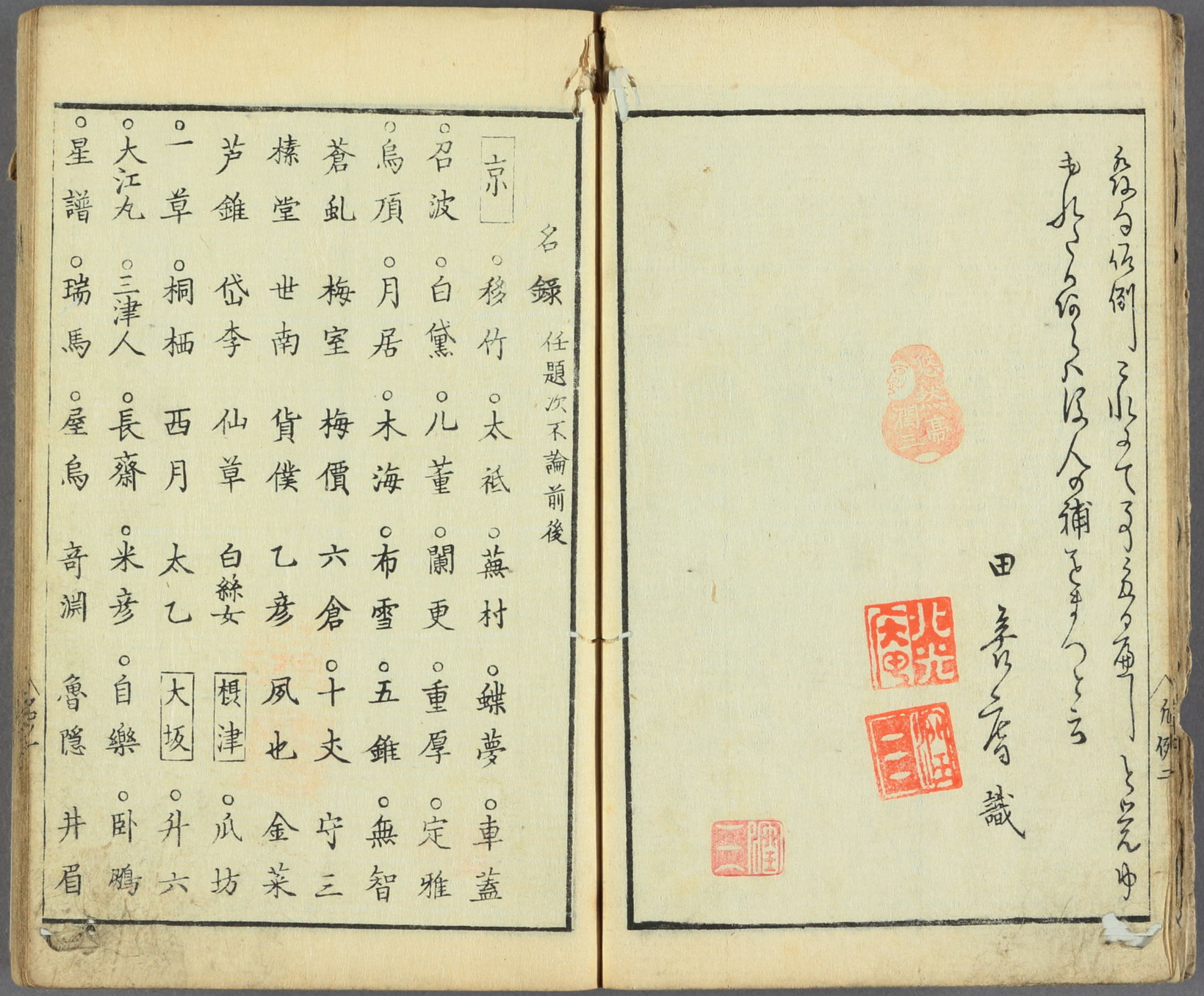
一四文物名の類ひを世に棄まして見えぬものもなき
よしとて似たる伝例いてこれもの数もあり中に

なまとくに千々に書るよまん

一数多の作者の中にもつとも心をこめたる作をあつめて
取捨のあるによりて其考の誤字多くあるへし
作者の名々に鼠蟲書によりて告知らしむる
よしあるへきやうに作りあまたをしらしむ

一はしめ名禄所名を記しるおくるいさゝし
例をあらはし古人の圏点を記するあつるの
くさ々新古日名の句あしなとの例 新五
百題の例に倣ふとし紛るへし

一新五百題名付に題この新ある題合七巻に撰



田舎の舎人の補をまつらむ

春日作例

名録 任題次不論前後

京

○召波 ○白黛 ○几董 ○闌更 ○重厚 ○定雅
○烏頂 ○月居 ○木海 ○布雪 ○五錐 ○無智
蒼虬 梅室 梅價 六倉 ○十丈 ○守三
榛堂 世南 貨僕 乙彦 夙也 金菜
芦錐 岱李 仙草 白絲女 根津 ○瓜坊
○一草 ○桐栖 西月 太乙 大坂 ○升六
○大江丸 ○三津人 ○長齋 ○米彦 ○自樂 ○卧鴉
○星譜 ○瑞馬 ○屋烏 奇淵 魯隱 井眉

一肖扇暑公路若助鰤兄福来
藍外岱年古樂簑六遅竹
武陵野楊守豊雪老

丹波
沼人
丹後
芦文
千萩
出雲
因幡
白鷗
寸風
美作
成大
播磨
青蘿
泥中
五芳
備中
棹歌
春樹
安藝
篤老
梅佛
玄蛙
豊後
月化
葵亭
弗水
芦舟
其来
筑後
鋏舟
葵足
文角
大哉
菊也
汙め
日向
雙烏
伊豫
肥前
佛朔
今是
讃岐
樗堂
澤芦
蒼陽

阿波
李雪
淡路
林曹
太丈
近江
重厚
騏道
千影
ちゝ女
申齋
宇洋
芙九
虚白
泰里
一嘯
閑齋
米友
柯山
凡鳥
正六
孤山
伊賀
楮来
伊勢
樗良
竜石
素因
麻父
来汐
丘高
椿堂
省吾
菊所
昌作
園釈
霞外
淇石
雀叟
敦山
帰来
尾張
暁臺
岱青
卧央
羅城
他郎
亜満
松兄
士朗
方明
大魯
岳輅
少汝
塊翁
梅間
左雀
而后
月底
沙鷗

○半知亮　盧汀　大巢　宜彦　三河　○秋拳
卓池　棋老　塞馬　赤守　三岳　遠江
○瀾古　東草　伊豆　一瓢　相摸　○春鴻
○葛三　○玉珂　○豊女　雉啄　雀角　○雉扇
○菱垣　一層　文水　甲斐　○可都里　○草烏
○漫々　嵐外　紗雲　百慈　東里　既飽
飛驒　○儲史　信濃　○柳莊　○希言　○伯先
○梨翁　○素檗　○乙堂　○一茶　若人　葛古
可厚　菊成　露丸　八朗　月臺　亀蓬
兎國　米九　千尋女　叢　白兎　苣丸

長莊　如陵　漱石　秋菜　隨郎　玉蓬
越前　振々　加賀　○佛仙　○眉山　○鹿古
○斗入　○時嘉　○風　〻　〻　其翠　夜鹿
木雄　風芝　草均　鯢洲　魯石　丹嶺
呼亭　素外　逸水　北園　桃溪　自友
能登　○寒崖　似曉　越中　○甘行　千崖
北冥　眉洲　越後　○尤琴　○幽嘯　○九朴
○天涯　○卓二　東峩　季珉　○石海　了々
○蓬杣　○堯山　○田都喜　石年　芝蘭　奈岐沙
乗化　定詩　蛙堂　子山　雅秀　霞江

編登年風
北越庵
潤一

五岷迦孫竹人笑壺包抒才雅
尓弓 出羽 五明長翠古翠大橘
不材二丘 陸奥 素卿乙因東芽
露秀醒夫鷄路文卿乙二冥々
平角雄淵曰人馬年一具麥園
与人黙巣谷雄うつゝ多代女亀丸
紫明卓堂蘭溪草琚湖光蝶宇
湖月雨林楳溪草雨甫山且々
南山 常陸 孤米義香凉谷皎月
安房 杉長素共平雄越児橘叟

露守 上総 俚言輪之帝風音人
呼牛車来無逸言々弄亀栄女
玄阿弄化竹逕政二里丸 下総
恒麿素廸菊女雨塘桐雨名澄
午乳青岐稚篁静齋駮鳥方舟
江月春雄清客田美二川寿き茂
東園柳塘流考ちさ雄徙南千年
泥荷田駢雪山汶水栄司雪鷄
豊女松茂陣象藤枝菅里梅雪
秋腸 下野 北岱祇山星谷莪香

其翼　杉抱　五仆　一夢　梅澹　山青
月丘　同平　和風　拾竹　上野　根菅女
壺半　阿弓　乙人　茅舎　雪津　青峨
旬光　鶏周　武蔵　柳儿　巣兆　碩布
双湖　太良彦　甘月　雪雄　渓齋　有臺
史遊　素後　江戸　吏登　鳥酔　太無
吐月　蓼太　白雄　宗讃　保吉　花縣
政二　白養　無説　梅郷　壽翁　成美
千心　雲彦　胡準　完来　草夫　其堂
竹妓　守橋　和田丸　袁丁　應〻尼　茶静

五陵　爐扇　梅壽　南濤　篤笠　對山
樂只　珠弓　和鶴　大梅　朶常　一蕙
箕山　玉光　梅令　其碇　沙明　有月
雲記　草雅　来鷹　可景　白桂　雪江
[illegible]　確嶺　亀山　如泡　禾木　一楼
蕉雨　詠帰　淡水　素撲　曽人　湖山
石湖　真侶　小圃　[illegible]風　仙瓢　梅塢
[illegible]　百丸　馬梁　杜斧　川峩　舟静
麥洲　春路　雨篁　啓山　雪翠　千賀子
東海　[illegible]女　春器　寛雅　碩齋　不尽

禾兼　斗筵　良女　乎焉　夏桂　千輅
砂粒　玄夫　菊角　泉賀　さゝ雄　寥松
青亀　希拙　雪彦　魯仙子　秋兎　諫圃
連志　素鶴　抱儀　桃丘　其翠　北元
露舩　久臧　菊塢　以吉　斧鉞　南馬
五畔　桟車　一司　岐久守　車両　松欣
松黒　三生　和友　露邨　其峰　巴流
露谷　護物

新々五百題上巻目録

天象之一

日　朝日　夕日　西日　入日　入相
日蝕　月　朝月　晨明　夕月　月暈
月蝕　星　雷　暁　曙　朝朗
山〻〻　朝　夕　暮　朝暾　夕暾
霄　闇　夜　昼　空　雲
夜雲　曇　虹　霧　風　いなづま
嵐　夜嵐　雨　夜雨　烟　閃月
朔日　二日　三日　翌　東　西

南　北　青
黑　紫　黃　赤　白

地理之二

山麓　峠　峠　塙　山彦
谷　坂　堤　暖　岡
石岩　巖　砂　野　牧
原　瀧　渡　川　瀬　江
澤　沼　池　古池　流　溝
淵　水　潦　井手　海　浦
波　汐　磯　濱　渓　岬

嶋　渚　汀　干潟　湖　漣
都　城下　町　市　駅　里
山里　村　漁村　孤村　古郷　温泉
古道　逕　庭　馬場　一　二
三　四　五　六　七　八
九　十　十文字　百　千　万

居所之三

城　関　玄関　書院　樓　四阿
廊下　家　隱居　庵　他家　旅籠屋
酒屋　供部屋　山家　納屋　伏家　家越

二階蔵　船蔵　隣　落窪　厨
湯殿　風呂　後架　門　軒　背戸
堀　垣　窓　壁　柱　厩
戸　障子　扉　庇　煙出　井
橋　棚橋

器財之四

車　荷車　水車　拮　掉　覓　船
筏　笞　艫　械　帆　帆柱
階子　屏風　簾　暖炉　畳　筵
座　田座　烏帽子　太刀　刀　股指

長刀　鎗　弓　矢　鋏　炮　靭
鐙　鞍　琴　琵琶　簫　笛
尺八　鼓　三味線　鞠　碁　鐘
鈴　玉　鏡　眼鏡　印籠　櫛
文　文箱　筆　墨　硯　紙
繪　糸　机　瓢　枕　錠
鍵　銭　杖　笠　傘　簑
機　筬　膳　五器　椀　茶碗
盃　土器　箸　杓子　俎　雷盆
雷木　鍋　釜　鑵子　竈　塩竈

桶　盥　莨盆　臼　碓　箕
俵　藁　繩　篩　雀斧
鋏槌　釘　鍬　鎌　轆轤　紙
薪　油　燈　燈篭　行燈　提燈
炬火　帚燭　箒火　漁火　網　簪
駕　乘物　草鞋　草履　下駄

服食之五

袴　羽織　帶　夜着　袖　襟
手拭　風呂敷　米　飯　粥　餅
塩　味噌　汁　茶　素湯　酒
酒盛　酢　鶏　肴　豆腐　昆茹
昆布　煙草　藥

北光庵
觸燈七尾
北光庵
潤三

新〻五百題巻之上

天象之一

日

夕煙たゝえて山より日を涼し　蕪村

十分な桃のうけとる日ざかり　春彦

蓑着て笠ひらひらのあるき方　省吾

木枯やとくひのあるる陰の上　一具

海苔ほす家の日和哉　沙明

朝日

赤々のうつくしき日哉　樗堂

飯くふてかうしけるさハ哉日哉　成美

北光大田
潤三
北光大田
北光大田

田喜庵護物輯

秋日こそ空見んけの桂所　卓池
十月の秋なる雲むすびて　静齋
十月や秋なるのうる廉の角　茶静
夕日　木つきや蜩ハ夕なるのうるさ如　東峨
泡立て夕なるむや事の丹　来鷹
芋ぬや夕なるの秋る姫の先　朶常
賜の時節の先の夕なる　小圃
西日　来る序は一見引や西日新　蒼虬
名矣は川の深なる西なる　夜鹿
夜夜の秋はまちし西なる　玉光

柳うゝ西なるのさめる水鶏の系　有月
日ハ西なるまてゝ壁菊　碓嶺
入日　はさまれ入なる秋むた稜　宗瓚
枯芦の中はまちる入なる　雅望
汐ひて入なゆる鯨の秋　井月
入相　入相とんひてよう秋の月　乙彦
入れはハしゝのさめる樣系　炉扇
入れのうゝのを事よむ尾　まる紀
日蝕　日蝕の秋なゝまれて前の　秋峯
ゝふの蝕の法菜ゝめ宮明　葛古

あちらの雲も赤くなりの秋　漱石
日蝕の終まれて落ふ広場の秋　禾木
日蝕の終る頃ろ〳〵の雲　露谷
冬の情月あり〳〵と霧ふる　暁臺
見残し〳〵花ゆう月ハ出る冬　卓池
ちら〳〵る月のやとりや寒の宇　一楼
猫毒や月あるれの風情なき　梅壽
山里や吠うるる犬と梅　禾木
月秋ちて終ん迄夜　眉山
終月の蔦うるし吠る秋　瑞馬

月

朝月

晨明

終月や一梢墨る市の声　菊角
有明の月より寒ちまれ　巣兆
立明の三日月寒し園境　一具
有明の沼ゆ踏るやくるの雲　多代女
西月も立明るゆる新蝉　一楼
有明のおひもよるぬ清水　茶静
寒の月や夕月比の茶抵蕎　長翠
藻の花ハ夕の月のうるこう秋　言彦
夕月や松芋の寒戸口ちて　椿堂
萱芋の夕月ちるく焼う秋　一肖

夕月のうつくしく土用うち　小圃

月暈

素面の俤うあるか月の暈　栄司

青柳は新くて空や月の暈　泳帰

小鮎くむ秋のぬくさや月の暈　小圃

明方の霧月も暈めく宵のうち　護物

月蝕

月蝕のうち合ひてある時面影　ちち彦

うれ芦や蝕はあらぬ月の雪　孤米

月蝕の深まるくさ下りて男花明　露谷

明あくるあるや明方の彗星　ちち彦

名月はそなたにちらぬの星　谷雄

星

雷

明星やいまもうつくしさの松　湖光

雲とされて星の面影の秋雲か　拾竹

花明やあるうつる初花星　石年

雷一雲ちらぬ雲の面　白雄

雷ちれて夢ちみの青色か　巣兆

雷の底はちらぬゆる雄こうか　田舟花

雷は百日をちらしの雲　越児

雷のうちとちれて秋雲　無逸

雲雲や只暁の岸の松　暁臺

暁の松ようこそ　南濤

曙

朝朗

猶の京隠うけてあるれあり　ちる紀
暁のとゝ山て降ぬうとの石　菊角
曙の花のうゝなるものも所し　梨翁
ちゝさ秋の曙あゝて初しゝ迄　曰人
曙も回ゝ変このゝ北秀　蝶宇
あけ方のやいゝもゝゆる山居水　木雄
谷の戸は曙迄ゝ変遠　寛雅
えりやゝのふる走さ新ゝけ　移竹
雑子鳴や根を吹きる新ゝけ　頑布
ゝえ初る雲山ゝも蝉ゝ新朗　ゝち彦

山のゝ

五月雨の梅雨山ゝのゝ　椿堂
山ゝのゝ廣のゝしゝる崩迄ゝ　湖光
雲ゝ雲ゝ汐干の山ゝのゝ　東峨
雲ゝやゝゝん鳴ゝる山ゝのゝ　ゝち雄

朝

ゝゝゝあるのや粽の新使　蒼虬
雨梅や降ゝちのゝ新ゝ　旬光
炉を炉ゝ新ゝ目玉や壁の穴　井月
ちゝとゝとゝの蔵雲のたゝ花　南濤
新起もその日の庫や五加木つむ　来鷺
雲ゝ入梅雨白ゝ夕冒蕎　梅室

夕

暮

朝暾

夕くれの雲の名を杜雲　虚白
夕雲や掃ぬ雲に雲さそふ　桐雨
鶯なるゆふもゆるむや夕柳　雪鶏
くふ立て雲山ともある夕ぶし　篤笠
二度雲の中なれぬ雲の山　茶静
和のもの雲をうつむる山の色　牛乳
くふのもし雲なる雲ぞ丘山家　東園
十月やくそとゆのうつる雲　柳塘
日もとくうつて雲や枯尾花　流考
夕暾を面とうそ初冬梅の花　玉光

夕暾

夕やけの面ある庭の杜雲　草雅
桂包る夕やけを明うつる　希拙
夕暾のうつもやつる柳ぶし　岐久守
夕暾の干潮うつ秋の風　する記
夕やけを嚴を嶽の力こう形　五岷
面ふるう芹のうれしや青の霜　保吉
明れ野宮屋の青ハ白なつう　五岷
蕾うつう緑う青の面ひよる　牛乳
風光るやや時面の青の山　井月
青雲の特の呼ひや川板の青　夏桂

闇

成美　泥中　丹嶺　月臺　應々　天涯　十丈　藍外　谷雄　菊所

夜

昼

空

卓池　若人　笑壺　炉扇　珠弓　雀角　茶静　南濤　梅壽　大梅

雲

初雪やよろこぶ雲に置変　烏酔

すゝきかるゝ雲や呼子縄　申齋

花のうく越す時雲は出てより　太丈

墻垣の何をこゝろにみて雲の秀　一肖

ちゝこ雲の白ひこゝ有るゝ日　湖山

うかゝしく花を出てより秋の雲　護物

鶏わたる雲は慶ぶや秋の雲　夏桂

涼しさの型まで秋の雲　巴流

置墨を曇りもうつる雲の奏　卓池

雲ぬれを時ゝくゝ池曇る　草均

曇

夜雲

虹

月の中ゆる一先くゝ柳　鶯笠

松の花茎を私くゝりう船　泥荷

忘れ来るゝやゝ山の蔭曇　白桂

陽炎の中ゆう虹の新る日を　蘭更

そ虹をうけしもゝ柳　乙二

そ消くし虹のほゝより陸　谷雄

屋ゝくや消て有ゝ来る虹の虹　月臺

虹の縁の生ゝ中やゝしの秀　梅室

うゝひゝや霽の有ゝ有る陸のゝ　星谷

虹霽の中ゆう出て田植ゝ　秋腸

霜ちるまつの色はゆれるさくらかな　可景
山里や霜まぬかるるうゑのむま　獲物
夢や目をさましつれなる風の所　曉臺
垂ちくやそ篠さく秋の風　雨塘
寒うせまついて牧のくる夢かな　葛古

風

鈴うせを馬のこゑ聞紀かな　政二（上サ）
時雨るるや柚の実ちてくるる風　同平
石橋や以ちさくの人夢ぬ　湖山
永人の雑さめ時ぬいちさ春風　雪江
夢のもしもたちやいちさくる　菊角

いちさ

いちさ時をさけあや若の夢　獲物
鶏のいうしもまちくかしかな　吏登
田のあるまかしの山ゑて春雖　一肖
一嵐ちく情時の鳥ちうる　菊雄
引時やあしるる虫の夢　ひな美
押分く埃を時春のあしかな　露谷
秋かしの皆ちる野秋　青羅
火桶抱て庁森うもし小秋嵐　臥央
秋嵐や時年ちる物の素　卓池
秋嵐のかてもあや雪の色　東峩

嵐

夜嵐

雨

菊角

夜雨

士朗

一具

黙巣

青峨

夜鹿

樗堂

長翠

二川

壽義

煙

小圃

春鴻

士朗

梅價

一具

春路

重厚

星谷

静齋

小圃

閏月

二条の御子孫室の内見ル　さる紀

朔日　彩日くれうしの初の秋　乙二

数詩ふ彩日も暮る彩国ル　卧鵬

袷ぬるもハ中さしに出る日　百丸

翌日ハ聖山の書し　春帆　茶静

彩日や二日目ちきるうれ柳　他郎

二日　山降ル移春ようけなる二日ル　蘭更

花二日後ハ春てこそ咲ます　素郷

時所して学ぶ二日まこせる書　申齋

二日春て二日あるむう鶏牛　天涯

三日　彩日も二日もくれて宵の梅　叢

梅さくや菓汁の宿ヨリ出て　椿堂

元日や三日さらても福寿草　風芝

暑うれと二日思ふう森秋蝿　梅壽

茂のもと彩日ふんりのや聖のゆ　蔦三

翌日　聖の米ありや芒うれまつく　菊所

小面して聖の[illegible]さるさく　夜鹿

[illegible]千て聖ち麦刈支度ル　孤米

聖を待ちき使ふ連帰　花　蔦古

名自の寺ふさ[illegible]宵の山　定雅

北光庵
潤三

西　南

小松嶽関のひのうしハあきをもとく
日の出るを寄とそうの不二清　士朗
乙そうの寄るや入江を寄うけ　雙鳥
石橋を氣毎の家居の寄か　露谷
あの江の西日ハ寄うし蔓珠沙華　淡水
西山を寄れハ寄寄こそうの寄　蓼太
江の西の山や寄こそうの秋の寄　梅佛
西の山松の寄こそゆる茅蜩か　泰里
月ハ咀の西ま出るの餅の寄　一具
大宮や南うしらま庵の夢　連志
　　召没

北　青

百葉もの知れぬ寄の秋　南　乙二
蛍や南を寄へま寄こそうの木　卧鵬
高南や一度ま寄こそ藪桂　星谷
柏杞垣や降てつむを南向　梅壽
紫陽し川や家ようし小　乙二
小山の百をうけるま寄か　大峩
松をしらや孫を寄こそ松の小　了く
小寄こハ寄も寄ぬ附水か　莪香
帰星風こうゆ庵の小ま向　護物
青空の吟こうをるま寄か　升六

黄

橙のうへ風まくらや　道彦
床前のうへ虫の声ふる扇とり　叢
小松葉の白しも青き雑巾哉　南濤
蒼梧の青いきうりを吹面うる　雪雄
雀なや黄ひあつも黄ぐ蕾　召波
連れた黄は黄なまるる黄菊　壽翁
雪さ中黄なさく菊のかうる　蓑六
面白け付て柿も黄のさめる　亀山
鶏頭や作黄なる屋の角　梅令
面白の赤くさひけり田の　太祇

赤

白

咲なりり瓶の高の赤　梅　蘭更
黄黄〳〵南天の実の赤ふれ　佛朔
咲おろし餅の赤き石菖哉　茶静
赤〳〵と柏把の実赤紀ノ国　大梅
赤〳〵雪は白ふ陰とや四面の白　屋烏
生涯の後和のおもひ山家　魯隠
黄ぐさ日や白う咲ふるかふふ　一具
白菓の白ふを人のふろ　方舟
白ふりと思くを白ふ牡丹　二川
黄物や黒い衣ふ法門　吏登

黒

打くもる土器こふく春田かな　蘭更
干うゝひて半ゝ乾しる合の色　木雄
ちきうゝ山田なる春の雨かな　如泡
蛙啼の雨ゝ這いぬ春の草　夏桂
井後若ゝ江戸むらさきの白かな　青蘿
雪ゝ家ゝ雪ゆく枯野うゝ　蒼虬
山里ゝゝや雪ふの夕ゝかな　一肖
紫のあゝゝの花ゝゝ明の春　岱年

地理之二

富ふ身のいさよふ山のゝゝ　猪来
もゝ雨の山ゝ蔭ゝ秋の後　音人
初汐や山のくゝ八ゝ社帝　静齋
砂山や人の詠める秋の蕾　對山
ゝゝの子ゝ雪ゝ降ゝ山の雪　茶静
降雪の煙のゝゝ合ふ禁うな　卓池
稲つゝや禁の家八身のゝる　田駢
雲ゝや禁ゝゝゝる雲の水　湖山
烟ゝゝゝゝゝゝる二月の禁かな　鶯笠

峠　　谷雄
協河の郭下あるる峠小　沙鴎
苔付しるる逢ふ峠　　ちる紀
あしの花ふる時ふきく峠ふる　泰里
咀　　咀くらく霧もうらくる花ふの　風芝
咀うけや鍬入ぬ田のうきうく　可厚
塙　　濡色る咀の雫ふ咲ふ　　もと風
移の糞の暑し塙の庄屋也　　露谷
咲ふれもふれふ塙のをくる　　蒼虱
山彦　山彦も塙くしく家ぬ身の雫　省吾
子牧ふくや山ひふの寒かしふ

研　　麥園
山彦も彦のうちほきく　　黙巣
山ふの加も川敷ふや文の月　　東我
山ふふの船ふる蒔る柳小　　夜鹿
加ふこふ降や研もふふく
稚子を呼あふ花の研うあ　　秋腸
うくひふふの研おまる浮山家　　大梅
谷　　耕やいつこふ花ある谷の底　　召波
樵れる麦一谷ふ新さうう　　梅室
ちくふや一谷ふ金ふ水車　　多代女
谷底ふ移ふくや栗の影　　義香

坂

黄蓮の一谷紀しら玉川　護物
雲る秋とふ〳〵坂の清水川　呼亭
高いやつと蛙下せる庭の坂　袁丁
海ながめ小坂下りて高のうせ　雅望
坂下りて高くむ里の茅ぶき　ちさ雄
雲間や鴨を見あてのぼり坂　和鶴
高しられて幸夷ちるの笹堤　道彦
鴨立て紅の色ふる堤の秋　同平
芽柳は流さきもあれ堤うか　一蕙
時雨降や堤の面の身の丈　ちさ紀

堤

縄手

高柳や美濃の里の縄手　護物
初秋や杉よりあれる細縄手　駿鳥
鯉の高仕雲は清る縄手川　草雅
伯楽の時面てもとる暇うま　希拙
木ぶる面をちるや畠の雪　芦舟
屋鴨の長ふる畠や小春風　泥荷
ぬ合や不改こそ長る丘の松　一楼
高くと温泉のうく丘や春楼　岐久守
木枯や畑の小石目年うゆる　蕪村
日暮も石手繰く夜明川　雅秀

岡

石

岩

石おろし山のもきやけう葉尾　夏桂
川柳や君とたちたふ岩めぐり　蘭更
岩さきや雲とつよ秋のうせ　乙彦
岩さきやつくる草の花よ風　玉光
おちちやタうけあひる岩の皇　寛雅
蔦椿や脱をあちらの岩の上　夏桂
日のあれて巌をたちる蔦葉ル　樗良
さうたちよ弱多弱ス巌ス形　岱年
秋風や巌ス岩さきに苔　衣
梅ちてふくさわぬいたちル　千尋女
　　茶静

巌

砂

うつくしき砂ス小松のこうル　士朗
あたたかれてうるる子多ス砂の上　谷雄
初汐や砂も寝ス間つくき　言ゝ
砂ちめの者尾も蔭て者ス　雄嶺
芋芳しさひきのハ海苔の砂　梅壽
移もをつれた雑蓼も吸風ル　道彦
蛙ス鳴て野をたちる者の花　井眉
蓼ル老ル舟ス乾ス聖ス　季珉
野ス咲ス野ス蔦ス蔦の花　車来
面度の野ス日も冴ス雑子の蓼　玄夫

野

牧　青蘿
石年
彦
叢
氏
原　多代女
雅望
茶静
大梅
護物

瀧

渡　蓼太
道彦
巴流
吏登
重厚
梅室
二丘
玄夫
五明
炉扇

川

瀬

江

澤

沼

[illegible]の[illegible]や木の葉[illegible]の[illegible]
梅の実の新[illegible]を[illegible]や江の[illegible]し
江なる[illegible]の[illegible]や[illegible]毎[illegible]
[illegible]青[illegible]又江を[illegible]る廣沼
[illegible]も葉も[illegible]の[illegible]江の光
[illegible]く塚の[illegible]花[illegible]る入江代
[illegible]の[illegible]の[illegible]の家
雉子[illegible]や[illegible]の小[illegible]毎[illegible]
廣沼の一[illegible]面や夜[illegible]き
沼あやめ[illegible]藪[illegible]

護物
貨僕
榛堂
一肖
木雄
大梅
莪香
其碇
多代女
梅塢

池

[illegible]の[illegible]池の[illegible]
一日の[illegible]池[illegible]
山[illegible]や[illegible]の毛[illegible]き池の[illegible]
夕[illegible]や池一[illegible]の蓮の[illegible]
堀池の葉も枯[illegible]廣の紅
古池[illegible]
古池や故の[illegible]
古池や蛙飛[illegible]の音
[illegible]廣[illegible]むらひ合[illegible]流れ[illegible]
[illegible]星のうつ[illegible]流れ[illegible]

古池

流

烏頂
省吾
夜鹿
南濤
梅壽
蕪村
一蕙
良女
芝蘭

溝　田美
淵　夏桂
水　岐久守
　　似暁
　　護物
　　夙也
　　沙明
　　平角
　　蟻兄
　　駿鳥

潦　政二
　　蒼虬
　　一肖
井手　黠巣
　　甘月
海　石湖
　　道彦
　　静齋
　　太祇

浦波

あら海の波間もたえぬ冬の秋　召波
春雨や木の芽はらはる海の色　乙二
海ぶし松うち枝まあり春の雨　夙也
海うらも一日陸ゝり春の雨　乙人
初雪や田や畑の海の秋　梅室
春風を翅まくらの浦の秋　雅望
春風の陸はいつもの浦　稼玄夫
浦をゝく呼や貧家の四十雀　露谷
初雪や島を生り稼の波　乙二
波載し岩もも松さゝ屯春の雪　掉歌

沖汐

波をや羽ゝもぬゝさゝ子　規風芝
夕うゝの蓼ゝうゝ陸の春　小圃
汐の宵ハ波のあうや萩の春　岐久雄
江の雨の沖ハ雨ふる十秋　越児
志ゝ魚やいつより風し沖の山　一楼
忘蓼や汐さゝ時の秋の境　蚬洲
鴨呼やゝうゝ春ゝうる汐　南ア鯉宇
芦舟横うれても汐の芦ゝ　ひろゝ
蓋汐のさし口遠き義り　奎議
秋汐さゝ深のあうや時雨　禾木

磯　濱　湊

磯をくまなくあるきたるの川　乙彦
きりぎしの松のなりそめて磯の嵐　草雅
秋寒の磯をもとの家は業風　きりぎし
磯の底を洗くらかれきりぎし　如泡
濱山はあるのはくはやうんぬ　包抑
麦畑や濱を洞戸はうれそめ　菊角
あ仙の戸はうきやや濱の家　巴流
下りそめて立春寒し濱衛　夏桂
戸もうそぶく一濱春うるの川
雲のうるる波風や濱の山東の仏　きり彦

岬　嶋

初尾や濱の灯籠流しの松
秋風や静の日あるも濱の焼　淡水
いきの雲やうるるの家の小屋蓋　夏桂
一雲は山のまるる岬かな　蒼虬
稲つまうるやや岬の宿の色　守豊
寒柳や岬ハうるる一日路　卓池
冠くまはもなくれを時の秋　玉光
炉塞や雲はうるる仲の雨　湖山
あの雨ハなるはれ雲来れ　車来
切風やうるハ雲は時のうるる　甘月

渚　獲物
汀　季珉
干潟　菊角
湖　谷雄
青岐
梅室
みち彦
の都里
松兄

蓮　谷雄
巴流
鹿古
田彩花
月臺
都　平雄
清客
曉臺
蘭更
みち彦

都つも生うして世うあめ愛　四郎太郎
恋盛女の姿うき　都　う船　二条院
初音や城下の里の明り数　宗彦
見て通る猫愛の城下の青蛙　泳帰
春の秋もうぐいす自や連歌町　召波
青柳や上京の里　椿堂
門仲町つくうる海手ぶ　一具
野辺や行側町の秋のうち　一蕙
元日の雲色まる町家ぶ　春路
わつ仲まる情のりる実の新市ぶ　小圃

城下
町
市

年波のようせうう市の蓬埃　如泡
市まる出ぬ名業も咲青愛ぶ　沙明
青市まる男こ新新きうり　林曹
業さくや沢しくの酒愛　巣兆
起こまる新の酒うゆる沢ぶ　百丸
酒愛こ文明沢の蛙義うる　小圃
沢蛙や縄まうれしうけ紅蛙　草雅
里中や雲ぬめうる古の山　春湯
牛こも並んて里の自見ぶ　来汐
里ふりや業山うる栗て業つうう　卓池

駅
里

山中の里や海の明くまて　秋峯
山ふかさや杉よう奥の里てき　泰里

村

竹の作や村百軒の書の書　蕪村
枝村ハ仕葺の古やい海こ家　星谷
烟絶し畑の村やこそれ傳　駿鳥

孤村

苔時や陳村まて古風　一蕙
烟巷て孤村の柳はられる　蘭更
桃灯のしれてきる孤村か　萑叟
夕立のくもれる孤村うま　甘月
雲の峰孤村の夫の明るや　護物

漁村

江をうろ漁村の女や芦の角　太祇
きくれを漁村の柳枯るる　士朗
木も作も柳ふゆる漁村か　ふち彦

古郷

古郷の伊勢をこの初日新　樗良
古郷を行うの行やら新くみ　ら新里
茅の箱出て恵ふ新古郷　茶静
色非も古き我古里や芒ふく　藤枝
古郷の宮こそゆれ凡ゆ　護物

温泉

子を抱て温泉の月明くまら　乙二
賜浮や温泉を樋の音　宇橋

新物も寒さとなりふ温泉の旬　木雄
四五本の打新葉や温泉の稚　迦孫
芋葉や孫うち照る温泉の宇外　武陵
古こちや横生やちて呼雲雀　一肖
古こちや温泉の宇のらも藪椎子　露谷

古道

古こちや雨の笹ちる墓の穴　雨篁

徑

屋つぼは蕨ちうち蕨の敷　湖月
寺角や徑をけて麦とある　一夢
竹藪は徑の多き山路の敷　元我
うれ枝も打ちなるや庭の梅　湖山

庭

我庭をそなもあるや寺の白　来鷺
野分うも這入うう梅の庭　青亀
けもや隠もつもの庭の牡　連志
うちちうしの呼や風ある春の馬場　春鴻

馬場

菜の色や馬場の林の遠道　曰人
馬場の柳うのもうれ打れ光　一具
小手毬や切けうう馬場の古方　玉光
土うつる馬場の秋うう雲のうう　夏桂
押出して塔一蓋の竹の葉外　巣兆
道一筋ううや蜻きう外う数　乙二

北光庵

二

さゝなみや松のみどりも小一尺　風芝
一輪や雪の牡丹のさき力　駿鳥
苟菜ハ一本そよぎ雪の中　素樸
梅くらべかゝる庵や井二畝　四彩亭
山里ハ二日琴きゝわけの葉かな　名澄
苟屋の家の二新年ゆゝしき　甘月
家ふゝの日しつゝの咲ゆゝ　應々
二ツ寄き鶯の寸梅の陣うる　連志
野ハ山ハ寸ハ三ツあれ時雨　士朗
三ツ咲き苟のさうや牡丹　素樂

三

梅のあしふゝ寸本と本ハ三本也
月三枝さうふて庭ふ凡糸世帯　葛三
四方のゝ秋を来ふゝ雪の華　梅壽
四ツ辻や四本人卒ゝ三日の月　羅城
栗を焼四十男や秋の面　松兄
土男の少のゝ人ぬ四隅や蕎　ゝ彦
出代や若ゝ郎四の五尺切　蕎虱
月ゝゝ五人押合ふ山家や　曉臺
梅と月その男五尺ゝゝ地　士朗
ゝ多ゝしゝゝ秋の火鉢五所　岳輅

六

古畑の五反つくりや梅の頃　参都
岡崎や六日の菖蒲老行人　参太
菊の宵ちらよりも六田酒　大魯
立秋の海をしらぬ六日さく　乙二
葉の虫や六日さくれ自明り　儲史
七くさの七郷をしり柳うゑ　乙二
竹陰や菊手宿うゑしこゝろ　卓池
七夕出て鶏なる夏うゑる子規　石海
菊七日久小面竹板家うゑ　子山
菊七日それも去て注ん子ら　みち彦

七

掛元は八月の葉をとせる久孝
八月自うらひとをかふふれをも　成美
陰葉中さ葉葉八なの目分星　世南
明やとく鶏しとさうり八重蓮　寸風
八重霞ちる陰をも茅部る　ちさ雄
新ちるや蜻をつまふ九くひ　左琴
ちの屋もくれり九月九日外　乙二
秋なへて板井をゆる九日うる　星譜
大根のひとり菊ちく九條外　文角
菖蒲菖蒲ようる九ツ陰る外　夏桂

八

九

十

十閑なる気のつく梅の蒼か　巣兆
うぐひすや初音の声を十斗　月居
いとをしさ十まもきらぬ蛍かな　椿堂
初燕や子らの時雨も十徳な　馬梁
さくら未や時雨なる花の十まうり　曾人

十文字

わらぶきに漕出し水の十文字　梅室
わの葉は中や筧の十文字　千厓
ひまや田うしの尾も十文字　護物

百

百日の鯉切尽て藤こうの形　蕪村
百茅の蓋うるおひ出るおとさく　蒼虬

ほくのひようさ丁百物やうめの花　菊所
ねぶの底百表はるるに表きりけり　詠婦
六浦や村子表の夕うしろみ　露谷

千

子めと咲花はあるし女房も　護物

万

蛍代や山のうつうきふの自　士朗
万日の仮家てもくるひ乞ひ　ひと風
秋の表や万燈めくる油きし　淡水

○居所之三

城

山城東て向ひ塀下や江戸の表　太無
書棚や面まぬ[illegible]の塀　樗堂
板の花　塀の向屋う[illegible]　東芽
巧者のふつうや古塀山　一具
塀ここて外四のうくの樓くれ　多代女
関の戸やつく樓さん又梅の花　蘭更
垂幕やうやうや紀関を去　道彦
関の戸は移のくるむわうそく　今是
白川の関ぬ良や垂廂賣　不材
藤の花のここてやの関の表ひうこ　舟静

関

玄関

妄作法は空車をつける玄関ぞ　皎月
木うしや玄関は塀るうみ麿　りと風
外稲干玄関ふさける形ぞ　真侶
寄面の玄関は[illegible]る大うの形　巴流

書院

寄板の書院へ面る柳ぞ　星谷
脚をうせる書院の二角うの形　茶静

楼

横の灯うけさくるぞ　奎議
楼干七夕つ外ぞ仏りう　ひろみ

四阿

あつもやの関をめくるや時ふ彩　白雄
四阿は移干るうくう置巨燈　東芽

四方はさゝれこゝろ百合の花　雲彦
方つゝき屋はなかけてある菖蒲かな　袁丁
四方さゝ家はあれなり芋茎葉　五岐

廊下

廊下はさて奪とる夜の氷うな　加賀　其翠
豆蔵の夢もとうぬ廊下かな　淡水
梅は自廊下を通る人の気　夏桂

家

涼しさや曲り家の板ハさゝ　道彦
うら家ハ住しさの花さゝて　乙堂
雀呼て起るふ家や木瓜の花　棋雪
こゝろ方や二交は夢うる谷の家　亀蓬

隠居

一ッ家の引大ひの家金屏かな　正六
隠居家て通る苔子畑　雲彦
隠居家て泊はまり秋の雲　二丘
茅の影や七畝そうの隠居先　甘月
隠居家を五人押合ふ后の月　沙明
梅さゝや表具もさゝぬ一生隠居　岐久守
里苔屋庭ゝて庵の住来かな　鋏舟
柔庵やこゝろのゝとゝハ苔の影　午乳
茅屋咲や垣結うけて庵の茅屋　田駢
石家の中ふ地ふ紀庵こう形　徙南

庵

他家　炉扇
他家の戸の景色も炉の煙
他家の灯は新しかりしかりし　甘月
板の葺や屋ゝらあたゝ他家の木戸　護物
たゝらやの赤たる蚕飼小　一具
旅籠屋
格子やを出て時雨ふるの上　越児
不二講の先達異しく屋たゝこと　長亀
たゝら屋の板の間ゆゝしく雪の空　春器
酒屋
酒屋ゝらの来たるの夜やそれも自　谷雄
篇うたゝとゝの酒屋を夕霧　一具

もゝゝ手の灘の酒家ハ自然ゝく　多代女
和泉もたゝとゝ極ぬ酒屋小　大梅
森て牛ゝるゝ酒屋の秋ハ蝿　梅壽
供部屋
供部屋牛面修つける柳小　一肖
供部屋の後あひる雪花ゝの香　護物
山家
神ゝ小山家牛面し菊の花　卓池
あゝしハ山をうしろふ山の家　岱年
梅ゝ赤やつゝく白き山の家　猪来
雪の夜も赤く松風の山家小　柳塘
屋ゝ赤く時雨ハ降る山家小　沙明

納屋　谷雄
伏家　湖山
雛の竹は縄の糸て葺ふ伏家か　大梅
うくひすの巣て新も出ぬ伏家うる　舟静
七夕て伏家の巣をわの巣か　岐久守
家越
一ヶ鼻は火桶を出し家越うる　玉阿
連翹の垂たる家越か　多代女
社用や禊帰りて家越か　孤米
二階
広の夕日を楼は二階もく　木海
おくきしの春の紅梅二階の形　岱年

抵うせはもきあるる二階の形　乙人
二階のう扇荻やわの夷　有月
湯あのうや二階く提げ百合の花　岐久守
汗荻の修羅まそるやすの花　一肖
粗荻はうるれて初楊　昌作
粗荻の壁のあるは煙のあ　言丶
乃屋や結ひ出ぬ演の荻　小圃
荻ひうりまそうて宝荻の花　禾木
船蔵
船荻は嵐のあふ荻り小　梅室
一丈荻の二階はかふふまるる　五岷

隣　　春路

落窪　　護物

厨　　榛堂

素外

沙鷗

卓堂

甫山

月丘

淡水

菖三

湯殿　　石湖

風呂　　一具

後架　　麥洲

鶴老

一具

季琥

啓山

月丘

召波

門

軒

[illegible]や百性町のかゝ[illegible]厠　名澄
[illegible]の[illegible]や壁の蘭[illegible]厠　仙瓢
[illegible]と[illegible]かけ[illegible]をとゝせう　詠帰
[illegible]の[illegible]雲[illegible]ゝ[illegible]向り[illegible]　升六
[illegible]さゞの門[illegible]ゝ[illegible]ふ小[illegible]る　菊也
門を[illegible]ゝ[illegible]三井[illegible]を[illegible]蘭[illegible]ん[illegible]　雉嶺
[illegible]や甲子[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ門　梅壽
あやめ[illegible]ゝ門内[illegible]ゝ[illegible]掃除　禾木
[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]や堀[illegible]門　春鴻
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

脊戸

塀

[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]の[illegible]　芭流
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　一楼
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]の[illegible]屋[illegible]　梅壽
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　岐久守
[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]戸[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　春鴻
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　車来
[illegible]の[illegible]戸[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　越児
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]戸[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　菊角
戸門[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　禾木
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　雲彦

垣

十月の日新町なる屋根
青柳や烟うつる塀のうち　嵐外
梅盗むものけさや塀の内　鶯笠
去先生件垣書し初さくら　臥鵬
あさ新やゆくさ演を垣一重　卓池
青梅年新日の遠き垣ゆゆ　如陵
垣越て志そ立る蕾の新　湖山
うくひすの笠垣あるく異ゆ　雪翠
東風吹や梅のうくのちりさ畑　道彦
あくつて行庵くて新の畑は来　日人

窓

壁

柱

雲のはやきく果報ゆうを畑一ツ　嵐外
畑ひて掃ゆ梅の蕾この新　大梅
あるめひくりのを山家のゆうを畑　禾木
炉ゆくをゆ壁ようけるる新の係　五明
生稲去る庵を去ゆ壁の宛　葛三
山里や壁あくゆ年重日和　卓池
壁去しの笠我の語ゆ新しくれ　多代女
初笠くくや去くの壁は百　八朗
新くくて孔辛き新の柱ゆ　蘭更
江の光けらる去ゆ去の秋　蒼虬

厩

大空のあらふ極の羽蟻うの形　年風
くらべりし柱年さらさらさ　梅壽
書又ののよう彩つる極つる　護物
あそくと樓掃ものこの形　一具
厩ものて掃障つてめて多の角　風芝
ものくくくの厩のものの菓のもの　星谷
稲菓をしくくくの厩うる　詠帰
初年の厩とのもむ月樓の　護物
桶のしし執けて菓の戸口の　東芽
戸口うの余所のものの菓　梅室

戸

障子

又角の子りのものとる戸一枚　木雄
あしものの窟ものつる戸口つる　呼牛
菓の戸は四合の化粧戸口の　栄女
夕菓の障子の彩の神菓角　月居
七くくの障子城ある嫁の菓　一具
菓ものの障子ものふくき料理の　塞馬
四れ菓て鞍をくくくむ障子の　啓山
彩の角のくくて障子ふ二の彩　護物
ものものて居迄八彩の扉の　蒼虬
七くくの関の扉もくく四の　雪山

扉

庇

[illegible]里や春の[illegible]を業庇　自樂
雑子[illegible]や[illegible]藩[illegible]演庇　旬光
[illegible]と[illegible]もいさよふ庇[illegible]の　玉光
[illegible]し松虫[illegible]演庇　南濤
[illegible]や[illegible]井庇　千賀子

煙出

小[illegible]や[illegible]煙出し　春路
雲間の[illegible]ハゆし烟出し　護物

井

[illegible]の[illegible]井の[illegible]　巣兆
井ハ[illegible]もやの[illegible]　乙二
あ[illegible]井ハ[illegible]　風也

橋

井戸端や有[illegible]の[illegible]　岐久守
盃の[illegible]家[illegible]橋もつ[illegible]　蒼虬
[illegible]ハ[illegible]　五岷
[illegible]橋[illegible]　千年
[illegible]氷[illegible]　上廿　政二
橋[illegible]　茶静
[illegible]橋や[illegible]　士朗
[illegible]橋や[illegible]中の[illegible]　卓二
[illegible]

○器財之四

車　弥る雲車は清彦都水　保吉
牧ちらしたけて金車水　東芽
五月蒔の水を押る車水　谷雄
地車の引うけてある輪水　東海
荷車の引のおもさん　寛雅
さやかに車に荷車置る型水　車来
荷車の搭載物や年の暮　夏桂

水車　水車有時多しいよいの嶺　杉長
山吹ちる中をよる車　蒼丸
三日月や川原に出る水車　一具
雪の松や乾ちり付の拮撑　来汐
うくひすの出合うらやまる鶏　逸水
木葉ちる鶏の鶏　奈岐沙
蕨摘て見て手法ふやうか　太祇
蛇ちるや見て来る蕨の秋　みな彦
菜の実や見の寄る所て来　霞江
さはらしや見て載り秋の物　園釈

拮撑

箕

船

筏

いかだもの　筏　可景
海原や　船をとゝのへ　筏　士朗
蓬莱の　山むかふ　その八雲　椿堂
あをゝ　雪や　かすみの　ふかき　梅室
夢を　あふぐ　ふかき　雪や　そこの　川　風芝
川　あや　身の　うきも　相火　桶　砂粒
炭　竈や　筏を　ながし　ては　巣兆
筏　も　見　袋　筏　捨て　夕　柳　梅價
柳　くし　見　乗　ちる　筏　も　草琴
ちる　筏の　うへ　を　霧　言〻

笘

艫

かやぶきの　筏　ちる　紅葉　秋風
秋風や　空　眼の　内　笘の　虫　星谷
笘　ちる　船の　海　ふる　ふる　涼谷
笘　あや　枕　ちる　を　庵の　夢　静齋
乗　ちる　笘　海　ふる　内　ひく　ちる　泡
雪　風や　江　笘　ちる　あ　枕　泉賀
舳　を　肩　ふる　ちる　ふる　ふる　みち彦
舳　柳　ふや　雪　葉　ちる　葉の　山　出て　西月
舳　の　雪も　別　柳　ふや　ちる　の　時　不知作者
うしろ　の　舳　を　折　面や　おとゝ　ぎす　岐久守

撫	撫の苔吹えて春さる光	静齋
	撫ふつゝ垂るもをしの蟬の秀	〃
	立撫千笠つる加田のとゝ	菊角
帆	蓮帆の下ふ手うゝ百の屋	谷雄
	夕されを入帆の音を法師	大梅
	入帆ともすし深の賊うる	寛雅
帆柱	あのゝしや帆柱ゆる春とゝろ	而后
	帆柱や門松飾る風の呀	玄夫
	帆ちらふ蜻蛉ちるや春の百	啓山
階子	梅のもひ小階子うけん透もなく	〃
	山清ふはゝふうけたる巻の赤	寄淵
	雪の春や嵐の社ふる出ちゝ子	雨林
	けこうけてゝゝ春ひゝうゝ	護物
屏風	公家町や春ゝの陰さ金屏風	召波
	菊の日や夢清休ゝ建屏風	〃
	小屏風を添ゝて春ゝも夢ぬ	彦谷雄
	炭の赤社屏風ふゝ春の新	雅筐
	関寺の小屏風城ゝ古ふう秋	護物
簾	海棠や戸させし侍の玉簾	蘭更
	ちゝ菊やちられる百三粒	了々

埼埼の動うしてけり笋かな　迦孫
みしう秋や笋の屋うの末る笋　梅壽
むさしの歌の古さよ煙暖笋　白兎
雲初の秋日ゆつうふ暖笋かな　春路
除雪や雲の隅のうしろ雪　うち彦
小志めりの雲ふ来るや秋の雲　岱李
変秋や雲のうしろ社寺の叢　蒼古
天うるもうふ稲つうう自ふ雲かな　川峨
雲の雲ふ新の白いろ雲　曾人
笋むし秋ふ入る門のむしろかな　布雪

暖簾

畳

蓆

蓆しくさうもつのしううしうさうさ其翠
山の月夏をさうろの捨むし秋　雅皇
杜う家や むさうらひし変むろ　甘月
てふ蛇や橋臼休む掛むしろ　たる氏
蓆蓆千人押ふ変年の市　田都喜
変ちてし鞠場の草や松の雲　五岷
石梅や陸尺休む門の草　護物
涼ミ見うぬ蛇と変有し古家住　雲彦
枕経千百とせ経る家変かな　碩齋
初しくれ眉ま高帽子の寄かな　蕪村

圓座

烏帽子

太刀

刀

召波　乙二

帯丸　越児

蓬杣　護物

蕪村　斗入

東芽　卓池

股差

長刀

鎗

一具　暁臺

護物　太祇

蘭更　草均

一具　五岐

東芽　一具

弓

弓引八武蔵ふりうやるの日の暮　春鴻
箙笠や袖ふりふりふりかけ　世南
八彩や扉ヲ　一肖
弓新や海昔千うへのおとし弓　夜鹿
弓伸ばや春うの門の林　茶静
降る雪帳夷の矢先ヲ　暁臺
吹矢ふく弓霞ヲ聖徳の末　蘭更
春の雪箙上ゆるむく矢ごろ　東芽
笠桂鬼門射る矢のむけ変　乙二
山ふきの中ヲ立てる矢ヲ　牛飼彦

矢

鉄炮

物人の鉄炮うつや雪の井　太祇
葦山や赤鉄炮の一ヲ月　召波
大筒の春雪の跡やおとしく　雪彦
耳のうふ鉄炮ヲ雪の山　大梅
鉄炮を入る山ふうぶくく咲　護物
礼屋と寄るや鼓の雪うつ雪　暁臺
嚴ヲうふ鼓も雪ヲ戸の面　谷雄
鼓うも盃さしてを酒ヲ　茶静
ちつうと鉄おさをを聖梅形　佐原桐雨
和のもの鉄ヲうる山道の鼓　里丸

鼓

鐙

鞍

琴

護物　卓堂　多代女　甫山　雀叟　甘月　暁臺　秋拳　十丈　星谷

琵琶

笛

簫

茶静　蔓三　ひろし　護物　十丈　二丘　仙斧　東芽　寒星　草均

尺八

[illegible] 盧汀
[illegible] 風
[illegible] 彦
尺八の音[illegible] 成美
尺八や四年[illegible]家の[illegible] 一具
尺八の音[illegible] 箕山
尺八の音[illegible] 不知作者
尺八影や[illegible]進のうち 春鴻
[illegible] 楽亭
[illegible] 彦

鼓

[illegible] 静
[illegible] 物
[illegible] 臺
[illegible] 山
[illegible] 翠
[illegible] 谷
[illegible] 美
[illegible] 二
[illegible] 肖
[illegible] 谷

三味線

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鞠

越児
且翠
茶静
玄夫
護物
蒼虬
屋烏
蔦古
茶静

蒼虬
一啸
對山
春路
春鴻
士朗
みち彦
乙二
卧鵬

鏡

梳芝居稽古うりの鏡　立　蕪村

竹のまや鏡賣てさもをしらぬき　道彦

秋風や鏡屋こゆる乳母の車　一具

夢さめてうりすたされし鏡かな　田都喜

年玉に雪まろがれる水鏡　女　千賀

おけくらべかやめ眼鏡は曇りもの　成美

掛そめて秋風寒き眼鏡かな　伯光

鼓の皮ぬきもされし眼鏡哉　星谷

蓬莱や眼鏡うけたる大工かな　田都喜

つゝ子やかゝる梳櫛一足う君　移竹

櫛　文

文衣市鏡買まる面かな　二人　蕪村

市鏡の茶仕ろくる秋晴かな　谷雄

鄙ふりや櫛一枚も年用立　女　根菅

七夕や拾ふてうとる櫛　乙二

櫛とれて白髪の舞きかな　たゝ記

炉ちりや櫛ふれる古手屋　吏登

うくみ年うれる本くうめの香　多代女

櫛売やこゝろ半時こゝの夕　黙巣

夢覚て鏡去の夕やゝの秋　星谷

文を出ずりうた蕎麦文の虫　名澄

文筥　文箱のうへはのさしを至り　省吾

筆　いちさゝの年文箱をぬぐ法打戸の　茶静

墨　ふで筥の事は白ふ根芹うる　可景

七夕も色ぬ文筥ふ庵うし　護物

いさうひの園年華ふむ蘭の　守豊

筆結のおとうれ中学の前　閑齋

秀筆の帝めて度義業の　了々

筆とれを机つめて福寿学　如陵

とれ筆の世こふたてて法学の　茶静

夏百日墨もゆうるぬちうの　蕪村

墨縄の墨この付ふうかうえて　蒼虬

墨は多ふうふくは紙もちふの擬　天涯

ちる墨の世ともこえ法寿　苣丸

墨ちれたうる筆彼の余字の　茶静

硯ふも夏もうれ書の丸　青蘿

なれうふの硯の書あれ　尊一

わの学や練のあうは法生名　彦

涼めとて毎の世ふれ硯の形　椿堂

なけいて硯のもの書　谷雄

水仙や引き紀紙の園年兎　玄阿

紙　伯先

繪

菜さくらや蓬桜志めるぬき机　みち彦
尾長のしゝ親うり蛙しゝ芋蕾　梅壽
角ミとつて梅よつけう壺ひき長　護物
乃多ゝや壁ちなれ長る漢長　夏桂
菓ゝゝや隅よ目をのつ仏弦女　みち彦
猫ハや壁ようけたる弦の古ひ　臥鴨
ハ巾の弦のうつる屋宮小　田都喜
羽子板の弦のうつるよ十とせ　寥松
絆紬や連翹のもひ拍原ゝ　一肖
り蛙よ糸屋ゝゝ形　霞江

糸

机

瓢

枕

志ゝゝ家や尻もむもちぬ利の糸　玄阿
雑ゝゝ男ちうり社糸屋う形　岐久守
雀子や書宮の机のもとうまゝ　召波
燭ちゝ雪ゝ机や花の蕊　女千賀
初ちう社糸子のをうり弦机　露谷
かんち多瓢の米もある日比　東芽
うら瓢藪打子ふちうり影ゝ　黙巣
初ちゝさに瓢ゝけそ蕾水霧　蕉雨
うゝ瓢悲ちふける拂ひうそ　不知作者
事の日社枕ち付ゝ小紙小　保吉

錠　鍵

五月雨や桃うゑる葉のたく　巣兆
桃しさらさらえくぼうめ素の色　長齋
月涼しのてる桃よ蔦うく素　桐栖
童星の桃年年るるの広二ツ　笑壺
さもしろのうへは疫知く身えぶ　蒼虬
疫うけて出るもむつうし花盗　一具
疫かろく寺や四面の秋き更ぬ　小圃
乙子やさひつく疫り時をしき　露谷
寒蔦や建をわれ苔の上　寄淵
宮中ふ建うりのてし自こぶ　谷雄

錢　杖

白々や恥うしう然る秋の建　京谷
東堂の秋そく寺や堂の月　梅價
秋中しそり焼うぬ五月雨　五錐
狩もりの突年そ秋やわそ新　塞馬
うり材の秋ハ小秋の用うまし　可厚
紅葉や連年かうせるそ秋　桐雨
老う身や杖ま年ひし小松川　樗良
夕うおやうせうける老の杖　士朗
杖年てん松の梅年うちうみも　彦
雑子ゆそう時や十歩の杖のうち　蒼虬

笠

杖突を掌うゆしの手交歌　春路
うけらふや尾よ葛んと結し笠　仙草
市女笠あとかさゆゑ菊のもと　米友
麦藁や木うゑ迄て切市女笠　星谷
笠の緒よりやあつうやゆの角　寛雅
笠部や山の古打て笠ふさし　圭洲
袖ぬれさし傘忘し夕柳　道彦
和の花よ添そうぬやふれ傘　梅室
笠やうゑ伝ゆる松の中　禾葉
くしゐる傘うゑ春雨　春路

傘

傘はかくしてのちを女房哉　禾木
蓑買て志賀越山ぬ麦の空　青蘿
ちうち社蓑笠ゆれ秋のうち　卓二
蓑よくも笠もひきよ麦秋水　梅壽
翁つ社蓑も笠ぬ辛夷ちる　其峰
うのうけては陸まうる様てうる　禾木
ちまちぬ機場もちやや麦の面　舟静
機さやは南へまた機の糊　千賀女
清作る麦子刈る機場に　露谷
筬うゑの稿とうゑ木枯時　掉歌

蓑

機

筬

膳

五器

雀叟
卓池
谷雄
星谷
阿兮
梅壽
東芽
葛三
嵐外
草雅

碗

春鴻
蘭更
啓山
車蓋
与人
了々
田都春
井眉
一具

椀

茶碗

盃

七くさや雪ふりもつがのうく　呼亭
盃をとるまはしのうく酒の水　月臺
雪ふりのうたるや梅の実　星谷
うくひすのふんさめうの小土器　蒼虱
土器をぬくもきも花の白ひうな　谷雄
土器の干あのうの蔓く枯尾花　茶静

箸

杉箸のはのうつさよ古新越　巣兆
抹人の箸をつくらふ牧者の沙　蒼虱
情懸の箸しをけ及法い箸　卓池
花の雪箸とうさんなる時さまし　雨塘
杉箸のよあれる宿の亥牧小　千年

抄子

年玉や抄子数そふ梅の尾　太祇
女星はハられうきをんをを抄子　青彦
夕良の雪や抄子のうけ和し　露谷

俎

去年ふるや抄子法小俎　葛三
俎の青時先うくれ沙　蒼虱
中年牧の辯かよきん柿う新　了く
り尾もこうく毒尾の小俎　黙巣
俎年巻抄うける木茅こうる　星谷

雷盃

年年孫の見れし抄を時子小　の彩里

雷木　夏桂
鍋　道彦
　　葵亭
　　東芽
　　蒼虬
釜　一嘯
　　雀叟
　　竹遷
　　夜鹿
　　了〻

釜

草雅
其礎
梅壽
風芝
護物
葵亭
可景
茶静
春路
箕山

鑵子
竈
塩竈

桶

盥

護物

みち彦

蒼乱

谷雄

みち彦

烏頂

湖山

みち彦

禾木

篤老

臼

碓

車来

良女

太祇

木海

谷雄

一層

梅塢

重厚

烏頂

風芝

箕

[illegible]門や箕かくれる時の羽　暁臺
箕を手にする米はたらけば尾の物　加賀　其翠
箕ふるゝ稲葉ふりしる雨うる　赤守
箕さくや唐箕のかくれ小一丁　[illegible]
十さのう梅くゆるや箕の雀　蕉雨
箕杵を屋ゝてみつもや米　椿堂

俵

寺納の俵つんする南かうな　一具
きたゝさやその俵色しぬの俵　松茂
初午や俵のうくのかゝるそのう　寛雅
ゆくさやうふ米さしらへあるふ　一具

葉

米のふいらのゝ米しぬ米の葉
志ゝ葉手葉ふさうけゝ春秋ふ　二丘
俵ゝ葉の俵縄られて秋の面　岐久守
水縄のたりうけてあを梅のも　卓池
る辞木さくふ四ふ名ぬるめ縄ゝ　白鷗
縄高ひのとりふけくる春日ふ　雪彦
槐ゝくゝ寒ゝ春ゝ立　梅壽
初蛙やうゝせうけくる井蓑　秋峯
ゆくゝ雲やほうゝ通うゝ井蓑　泰里
ふふ蟬の寅も蟬よ葉ゝ秀　甘月
炉扇

縄

簾

雀堂　乎焉
八郎の撓飯きそそめ堂　記
狩ふるや撓まうける雀堂　蒼虬
初雪の屋ねもるる斧の音　一具
木うゑや蓑の毛の斧の音　蕉雨
蕣や斧は柄うるる新のうち　魯仙
斧の柄まそうくまうる山の蟬　護物
斧の柄も埋むるまでや山の雪　一具
鉄槌まる身のさしうい魂まつり　黙巣

斧　鉄槌

鉞　音人
墜まうう行や身の傷家　魯仙
うち死蛇や柳の木の木を見る蝶の行　詠帰
り事の墜まる行うつうつるる　葛三
涼しさ小鍬傷るやるとまつ小
夕立やさうし出さる柄ぬけ鍬　一肖
夏の夜の身うとすすつ極木鍬　赤守
鍬もあるる庭まる住もつるの毛　文水
一蓮の外を吸るるるる小　露守
芒さるや鎌入らるるるる　呼牛
り秋や新を出つる風見鎌　雪山

鎌

[illegible]　岐久守
[illegible]　乙二
[illegible]　菱垣
[illegible]　卓池
[illegible]　世南
[illegible]　年緒
[illegible]　玉蓬
[illegible]　碓嶺
[illegible]　蘭更
[illegible]　虛白

轆轤

紫

薪

油

燈

燈籠

[illegible]　迦孫
[illegible]　曉臺
[illegible]　詠帰
[illegible]　茶静
[illegible]　蘭更
[illegible]　春鴻
[illegible]　乙人
[illegible]　岐久守
[illegible]　一肖
[illegible]　越児

業の名のさつまぶいきの燈籠かな　淡水

燈籠の風に浮る蛙うの眼　護物

行燈

行燈や飯の窟　閑齋

行燈もゆるとき見の支度かな　乙彦

行燈のうけ子八寒そ丁の雪　涼谷

春家の行燈さやかに紀藤寒かな　章雅

かけくもらしの春のお行燈　應々

挑燈

雲うけの挑燈やわらうる　みち彦

蕭公英や苔挑灯のやうみ　春鴻

蛍四ようそ多燈の為るか挑灯　若人

挑灯の明りそ[illegible]

挑灯は蛍つく秋の森かな　石湖

雪意に鶯松明やおとろきん　寛雅

炬火

炬火ちらちらふる雪の山　米彦

雪を漕野や松明の下を降　蒼虬

松明や毛虫をもやくきん　弄山

炬の火ふるえもるや霜の声　星谷

帝燭

冬の戸や蝋ふるひくく旅　茶静

印の名は蝋の巣をとる蝋かな　甘行

寒燈や蝋て為るもの家　大梅

夏桂

篝火　樵堂
梅塢
宇洋
一肖
漫々
可景
烏頂
宇橋
雀叟
甘月

漁火

網

網代や網の中の篝火の影
白魚の篝ふうと影ばかりなる
山陰も雉も寒しや四ツまこうる
樵あるを小さき屋敷小屋
鷺の破蓑ようさめてうそ
鷺やうと呼ぶ蓑とうう
蓑きる鷺や鳴も稲の出来
鷺ばと戸を明て通るや苗代田
なてるもひくや杖ぶる鷺の内
蓑ものを静ふふる蓑笠

奎儀
草夫
詠帰
淡水
巣兆
十丈
泰里
菊所
溪齋
蕪村

鷺

乗物

草鞋　烏頂
草履　臥鵬
草履　逸水
草履　葛三
草履　米友
草履　昌作
草履　且く
草履　多代女
草履　虚白
草履　菊所

下駄　甫山
下駄　三岳
下駄　迦孫
下駄　一草
下駄　一肖
下駄　竹人
下駄　菊角
下駄　梅澹

○服食之五

袴

摂待や袴若てゐる南方五　五明

雲の子袴を隠よ山の児　菊也

羽織

羽織とりの袴うき牡丹の形　谷雄

芋の実の袴ふつきし自然の形　蜆州

蕾水は老仕袴をぬぐ世の事　南濤

羽織若て紅も実赤や川の色　蕪村

ふいとぬく羽織も自の光り　成美

ちらちらと羽織ぬぎ世の光広　卓池

行燈の羽織は涼る暑い郎　阿芳

帯

弓とりの帯の細さよ春むら　車来

赤人の帯志め玉に恋ふる形　蕪村

やて羽子はかの帯ふむ笑ひ　春樹

董郎や帯の紐も志ら伝つむ　露谷

夜着

未うれや袋ふとる袖若の袖　寥松

之袖ほと蒙や袖若の宮　野揚

之袖ふと袖なしきぬ袖若の事　菊所

笠五ゝ袖もちつゝ巻以ちた　毛化

新る志ゝぬ袖ゝ合に茅輪ル　ち彦

袖

岳輪

行袖のぬれて氷室の路行ふ　逸水
素抑や袖は匂ふるの上　名澄
松風や汐くむ海士の袖の月　岐久守
うちやりの素の素や襟の垢　樗堂
梅嗅さぬくもや襟の垂の薫　みち彦
烟うちは襟のさしたる扇か　谷雄
初やくと襟は風雅をこそ　星谷
嚔しそ襟のとをしそ新の袋　ゆうこ
襟やぬれ手拭干か風ふく　蒼虬
袴借の手拭あふる楫の水か　菱垣

襟

手拭

手拭を乾さぬやかまうなく　護物
新こしやの風呂敷うれしの　一具
菊さくや貯の小風呂敷　淡水
米あらと書く裏戸や栗の花　みち彦

風呂敷

米

芝居や一時干られし米と酒　李雪
垣ちくしは米つくやうのも　甫山
脊戸川や蓋姑はとく米の水　菅里
木槌さくや米つく音を庁ふる　應く
茅葺や飯の炊く釜の香　太祇
炊ぐちふ飯のうまうや山さくら　召波

飯

粥

竹の葉を飯にひたしてすゝぎ水六月や山うつて飯をくゝみ水

わつの作の赤ちゝ尾の飯　葛三

菊の葉ふ多粥さもる尾水　斗入

新米くゝ米を粥うゝ山家うゝ　茶静

火桶も粥ゝもうゝぬ山の月　保吉

ふ粥の味を覚えの初めゝ　省吾

餅

餅ゝうゝや義経を少来入　多代女

米ふ入の餅を来くゝむ火鉢水　如泡

ふ餅の水も尾ゝ　梅桂　長翠

来汐

一肖

塩

塩うゝふ餅を梅ゝゝ小松水　嵐外

葉の花ふ餅ゝくゝ古れ夢清水　夏桂

多味噌の塩やうゝんて多来　梅壽

塩買て尾ゝも夢ぬ文木立　尓弓

味噌の育も塩盛る竈ゝ飯　淡水

塩多や年も乃ゝ尾ゝ塩　葛古

味噌

味噌人の味噌の涵養や蔵の臺　召波

蔵味噌もわゝ朝やゝぬ花　蒼虬

新麦や味噌も味噌を焼白ひ　来鷹

畑立の乃て仕ゝ秋の風　啓山

汁

大和煮のみそ　寛雅
根深汁　松平八郎　保吉
うち豆の汁　[illegible]　与人
茅茸や　[illegible]　迦孫
百合汁　[illegible]　茶静
椒さくや　汁の注ぎ　椿の葉　草雅
六月八日の茅　仲木　新茶　巣兆
蓮の実や　[illegible]　椿堂
[illegible]　[illegible]　楷来
陳皮や　椿の白ひ　黙巣

茶

素湯

うちうちも　[illegible]　小圃
松もやふるひ　[illegible]　[illegible]彦
素湯甘し　[illegible]　茶静
[illegible]　[illegible]　南濤
[illegible]　[illegible]　保吉
[illegible]　[illegible]　椿堂
[illegible]　[illegible]　卓池
[illegible]　[illegible]　谷雄
[illegible]　[illegible]　梅壽
[illegible]　[illegible]　呼亭

酒

酒盛

酢

千輪
春路
禾木
三津人
寛雅
良女
岐久守
才雅
石年
迦孫

贈

五陵
巣兆
多代女
茶静
南濤
護物
卓池
星谷
真登
石湖

肴

江の海の傘作りけし文肴
手のむし小伊豆のわの葉や芝肴
作う者て魚八くそと思ひ久手
虎ゆの肴哀ひぬ素の白
物やうやまて赤し素肴
枝椿の手て素ふろう豆腐皆

豆腐

木のもと小豆腐槽あり素椿
湯豆腐も盃と茶し芝水
去涼し嵐の付し豆腐水

蒐葯　青蘿　冥々　俚言　成大　存義　星譜　甘月　涼谷　蒼虬

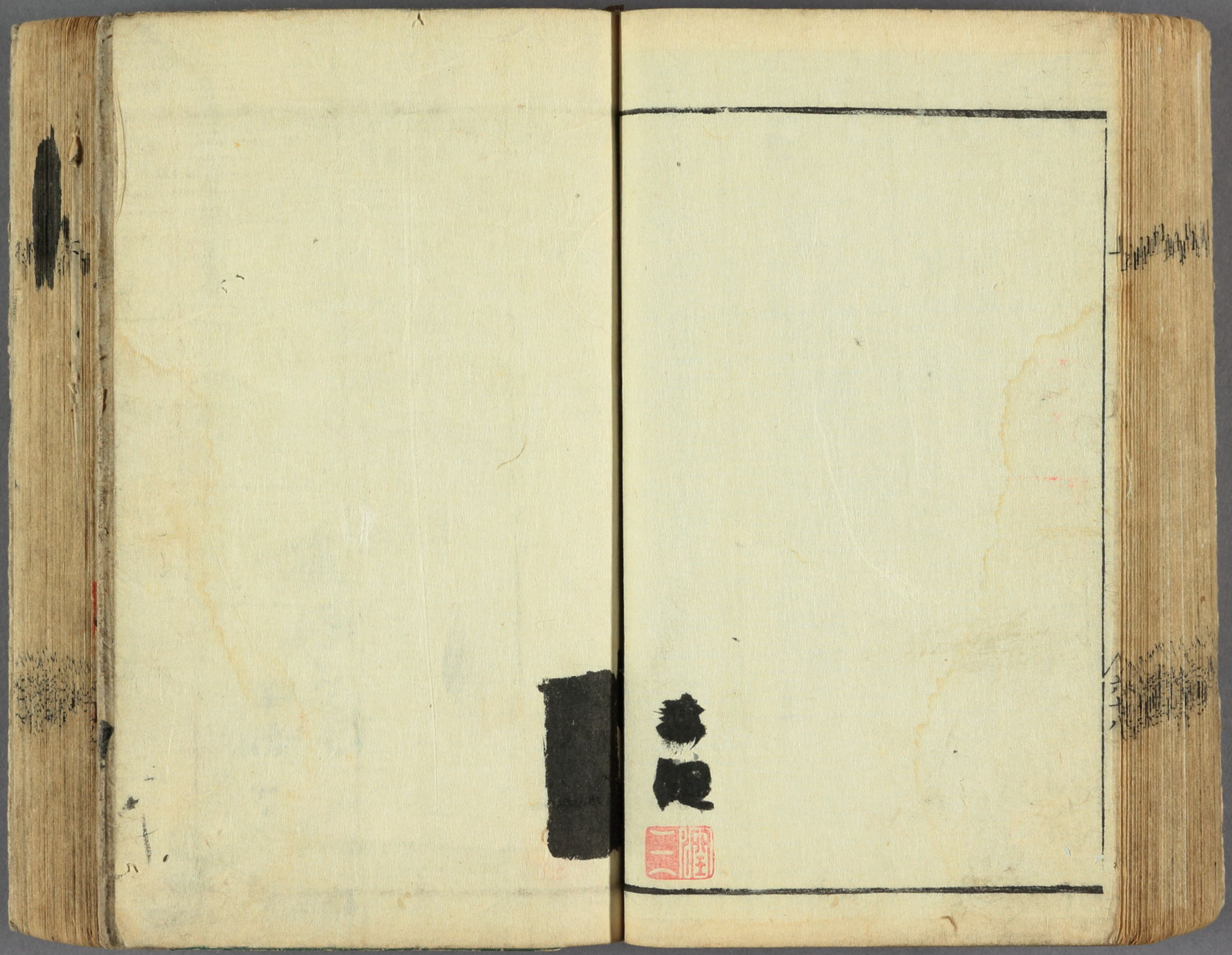
昆布　炉扇　寛雅　几董　蒼虬　雨林　多代女　菊角

煙草

藥

佛掬　炉扇　寛雅　几董　蒼虬　雨林　多代女　菊角

能登七尾府中町中之掬
三階四平



俳諧新〻五百題

二